

# 学ぶ仕掛け次々

朝日新聞社と学校法人河合塾は、国内すべての大学を対象にした「ひらく 日本の大学」調査を実施した。2回目の今回は、大学教育の質の向上や国際化へ向けた具体策を中心に聞いた。ここでは、主に教育の質の向上について伝える。



教員の質を高め、授業を改善するためのファカルティ・ディベロップメント(FD)と呼ばれる取り組みに、学生が参画する大学が増えている。教員同士だけでなく学生の「本音」を



学生発案型授業について、アンケート結果をもとに話し合う学生メンバーたち。岡山市北区の岡山大学

## 学生が授業発案 「ドラえもんの科学」も誕生

取り入れて、効果を高めようという狙いだ。今回、学部としてFDに取組んでいると答えたのは93.5%。実施内容では研修会が最も多く75.3%、講演会67.8%だった。効果があつたと感じるものが尋ねると、研修会46.8%、講演会35.9%と数値は大幅に低下。期待したほどの効果が得られていないように見える。



教員も交えてFDについて話し合う「学生FD委員会」学生たち。札幌市豊平区の札幌大

岡山大学では、授業のテーマ発案から講師選定、成績評価まで学生が企画する「学生発案型授業」に取り組んでいる。2003年に始まり、アニメ「ドラえもん」の道具を科学の目で検証する「ドラえもんの科学」など、これまでに8講座が開かれた。

現在13年度に開講予定の授業について話し合いが進む。学生の意見を取り入れようと、10月には初めて学生向けアンケートを実施した。

工学部2年の高橋雄大さん(20)は「ここまで学生任せがなかった。」「今までは教職員だけで構成していたFD推進委員会に、今年度から学生1人を正式メンバーとして加えた。法学部3年の横山依於里さん(21)は「学生の思いを先生に伝えたい。変化を待つのではなく、学生自身が変わって、認めてもらいたい」と意気込む。

学生、教員、職員がFDについて自由に話し合える場も、年に数回開いている。札幌市豊平区に在籍する。FDに取組む学生たちの情報交換の場もある。立命館大(京都市)が09年夏から開く「学生FDサミット」もその一つだ。4回目となった今年8月には、48大学から学生や教職員約270人が参加。「どんな授業がいい?」「大学で何がしたい?」などをテーマに話し合った。

## 成績の数値化

## 「打率」重視の方式導入6割

単位を取得した科目の成績を数値化する「GPA(グレート・ポイント・アベレージ)」を導入している大学は60.8%にのぼった。成績評価を厳密にすることで教育の質を保つ狙いがあるが、この数値を進級や卒業判定基準に活用しているのは、全体の14.4%にとどまった。

2010年度の新入生から卒業要件として導入した

一橋大(東京都)の落合一泰副学長は「野球に例えると、これまでのヒット数で評価していたが打率も重視しますよ」ということと説明する。

来春からGPAを取り入れる日本女子大(東京都)は「まずは学力を把握するための数値化」と位置づける。名古屋大も「学生の海外留学など国際化を進める上でGPA導入は必要だが、進級や卒業判定に使うかは検討中」という。

GPAそのものに二の足を踏む大学もある。GPAを導入について「検討中」「今のところ考えていない」と回答したのは29.5%に上った。ある国立大学の担当者は「教科によって成績評価の厳しさにばらつきがある。学生が不公平感を持たないような仕組みを作らないと、GPAは導入できない」と話している。

単位を取得した科目の成績を数値化する「GPA(グレート・ポイント・アベレージ)」を導入している大学は60.8%にのぼった。成績評価を厳密にすることで教育の質を保つ狙いがあるが、この数値を進級や卒業判定基準に活用しているのは、全体の14.4%にとどまった。

**GPAのしくみ**

(例)

大さん	学さん
A	A
B	B
B	B
履修せず	F
履修せず	F
C	C
D	D
5	5

取得単位数は同じ

取得点の合計  
A(4点)+B(3点)+B(3点)+C(2点)+D(1点)=13点

履修登録した単位数の合計  
5単位

算出方法  
 $\frac{13}{5} = 2.60$

取得単位数は同じでもGPAには差がつく

取得点の合計  
A(4点)+B(3点)+C(2点)+D(1点)=10点

履修登録した単位数の合計  
7単位

算出方法  
 $\frac{10}{7} = 1.85$

GPAは不可が増えると数値が下がる仕組みだ。図

大分大工学部は、進級、卒業ともGPA2.0以上(最高は5.0)を基準とし、2学期連続で2.0未満となるなど低成績の学生には指導教員が改善を指導する。

卒業判定に使われる場合、1年生からの積み重ねが評価対象となるため、早い段階で低成績に陥ると立て直しが難しい。一橋大は、過去に履修した科目を翌年に受け直して成績評価を上書きできる制度も導入した。

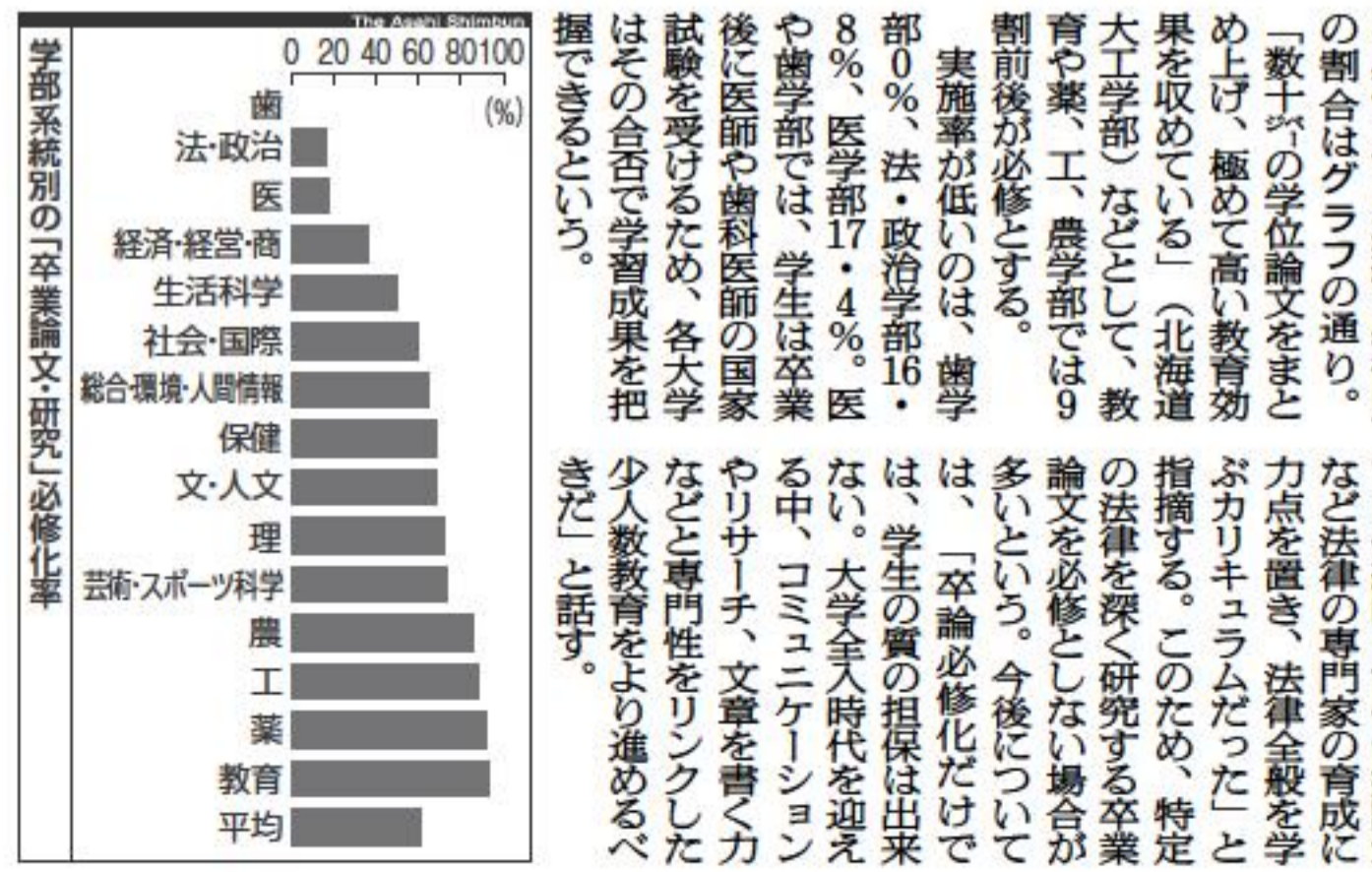
一方、全体の41.0%はGPAを進級や卒業判定基準として活用することは「今のところ考えていない」と答えた。

木野茂教授は「学生が求める授業を実現したい、という同じ思いを持つ仲間と交流することで、横のつながりができ、学生が自信を深めている」と話している。

静岡大学大学院法務研究科の藤本亮教授は「法学部では伝統的に官僚や弁護士など法律の専門家の育成に力点を置き、法律全般を学ぶカリキュラムだった」と指摘する。このため、特定の法律を深く研究する卒業論文を必修としない場合が多いという。今後については、「卒業必修化だけでは、学生の質の担保は出来ない。大学全入時代を迎える中、コミュニケーションやリサーチ、文章を書く力など専門性をリンクした少人数教育をより進めるべきだ」と話す。

## 必修化6割法・政治は16%

卒業論文、卒業研究の実施について各学部で尋ねたところ、60.5%が必修化していた。在学中の学習成果を把握する材料となるものだが、実施率は学部の系統によって大きな差があった。医・歯学部や法・政治学部で低い率なのが目立つ。静岡大学大学院法務研究科の藤本亮教授は「法学部では伝統的に官僚や弁護士など法律の専門家の育成に力点を置き、法律全般を学ぶカリキュラムだった」と指摘する。このため、特定の法律を深く研究する卒業論文を必修としない場合が多いという。今後については、「卒業必修化だけでは、学生の質の担保は出来ない。大学全入時代を迎える中、コミュニケーションやリサーチ、文章を書く力など専門性をリンクした少人数教育をより進めるべきだ」と話す。



## 追跡調査 推薦・AO…学力把握に5割実施

一般や推薦、AOなどの入試方式別に、学生の入学後の成績を追跡調査している大学は54.2%に上った。うち、約9割が入試の改善に活用している。優秀な学生を確保するための重要なデータとして使われているようだ。宇都宮大は2006年、調査結果をもとに国際学部の推薦入試の定員を30人から44人に増やした。石田朋靖副学長は、調査について「学力試験を経ず推薦入試などで入った学生は学力が低い、という見方もあったので、検証する必要があった」と話す。その結果、授業態度の良さなども考慮し、むしろ定員を増やすことにしたという。また、現在は全体的に英語が苦手な学生が多い傾向が見られるため、入試科目